



三田ふれあいセンター コスモスの家

「三田ふれあいセンターコスモスの家」が開設されてから今年で3年目となりました。

平成15年にコスモスの家が行った三田小学校区を対象にした地域調査に「身近な場所に気軽に使える交流の場がない」という意見が多くあり、住民同士（特に高齢者）のコミュニケーションが気



薄になっていくことがわかりました。そこで開設したのが「三田ふれあいセンター・コスモスの家（*以下ふれあいセンター）」です。「誰でも気軽に利用できる」をモットーに、このふれあい

2006年夏号
季刊No.83

特定非営利活動法人 川崎コスモスの家
〒214 0034 川崎市多摩区三田二丁目一三
TEL 044-931-2455 FAX 931-2444



センターを中心に地域住民の皆さんの支えあいのネットワークを広げていくというのが目的です。開設当初は昼食会と喫茶室がメインでしたが、スタッフの努力によって今では**毎週水曜日に昼食会**（5週目は休み）、

第1、3木曜日には喫茶室、第2土曜日にはケーキを焼く会などを開いています。

スタッフはすべてボランティアの方々に住む主婦の方、定年退職した男性の方々です。

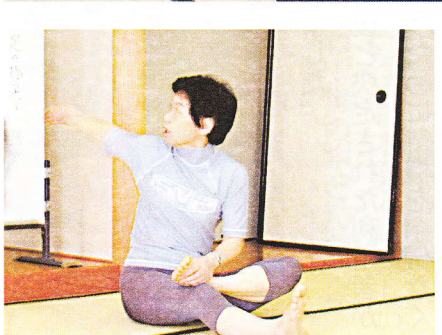
昨年1年間で延べ1350名の方が「ふれあいセンター」を利用していただきました。また、スタッ



フの人脈と努力によって活動内容も充実しました！
第1、3土曜日にはヨガ教室、第3土曜日には俳句の会が開かれています。（会場は青少年創作センター等）7月からは新企画の「**初心者パソコン教室**」が開講します！（第2、4



木曜日、7、8、9月の3ヶ月、全6回の予定）今後も高齢者の方だけではなく、定年退職した方子育て中の親御さん、ボランティア活動をなさいたい方などの交流の場を作りたいと思っております。



平成18年度

通常総会が開催されました

平成18年5月28日（日）にNPO法人秋桜舎の平成18年度通常総会が開催されました。

主な議題は、

- ①平成17年度事業（7事業）等の経過報告
- ②平成17年度決算承認の件について
- ③平成18年度事業計画（案）承認の件について
- ④平成18年度事業予算（案）承認の件についてです。



渡辺ひろみ理事長

本格的に始まった介護保険の改正により、予防重視システムへの転換で高齢者の生活を総合的に支援する「地域包括センター」が自治体によって設置されました。それによって、新予防介護給付と地域支援事業等が行われます。

国では地域包括センターの設置を人口2万〜3万に一箇所としています。

川崎市では人口3万人に対し一箇所ということで36箇所が設置さ



れました。

しかし、多摩区であれば人口4万人強に一箇所です。

市では平成20年度までに38箇所にしたいと発表しています。

コスモスの家では、ケアプラン、デイサービス、ホームヘルプサービスに各介護予防サービス事業が加わりました。

NPO法人・秋桜舎・コスモスの家は、NPO法人設立当初から介護保険の枠にとられず在宅生活を支援する事業を展開してきました。

- 平成18年度総会ではかつてない社会保障制度の大転換のなかで安心して住める地域社会をつくるために、
- 利用者、家族の個別ニーズに応えられる各種のサービス提供事業をきめ細かく行うこと。
 - 身近な市や区の自治体と協力して地域社会のニーズに目をむけ地域センターの役割を果たしていくこと。
 - それにとまなう予算の検討
 - 役員の再任など
- 議案の承認を得、総会を無事終わることが出来ました。

★介護保険の現実にあわなない問題点を

地域から変えていこう！

大阪千代田短期大学副学長 山本敏貢氏語るー
今回の見直しによってケアマネージャーが受け持つことが出来る件数は一人35ケース、予防は8ケースという制限ができました。

この制限によって要支援と決定された利用者がケアプランを立ててもらうために待機を余儀なくされる実態が生まれています。このような事態を打開するために、コスモスの家が地域とともになすべき課題は次の通りです。

●介護保険見直しで実施される新予防給付の対象となる軽度認定者が引き続き必要なサービスを受けられるように「不服審査請求」を積極的に取り組む。

●大幅な介護保険料値上げの軽減や低所得者の減免を拡げるよう申請する。

●NPO法人が地域包括センターの事業に取り組む。

●地域で安心して在宅生活を続けられるようスタッフ・利用者・事業者の連携プレーで自治体との共同をひろげていく。



山本敏貢氏



コスモスの家の 講師の先生 ⑥

講師の先生の紹介第6段は、絵手紙の藤田秀子先生です。

最近大流行の絵手紙ですが、藤田先生はもう7年前から始められたんだそうです。

「実を申しますと、それまでは絵を描くことには全くの無関心だったんですよ。」それがなぜ？

「絵手紙協会会長の小池邦夫先生のご本『はじめの絵手紙』がきっかけです。先生のモットーは『下手でいい、下手がいい』なんです。いい感じでしょうか？ 気負いがなくて(笑)」

最初は暗中模索、新日本婦人の会の絵手紙小組(サークル)の講座に参加。ついには講座の責任者になられたそうです。

絵手紙を書き始めた頃は、嬉しくて嬉しくて四季折々の花や風景を描かずにはいられなくなったそうです。絵手紙中毒?(笑)「一番最初に送った人は実は私の姉で、いまでもやり取りしています。」



藤田秀子先生

藤田先生から送られてくる絵手紙を見てお姉さんは感激し、とうとう



お姉さんも絵手紙を始めました。「姉はついには絵手紙のサークルを作ってしまったんですよ(笑)でも、絵手紙はいいですよ。材料費

もそんなにかかりませんし、何よりお家で気軽に、そして長く続けられる趣味だと思っんです。高齢者の方にはびったりだと思っすね。」藤田先生は数年前交通事故にあわれ、一時は歩くこともままならなかったそうです。「本当にあの時は絶望的な気持ちになりました。そのときにね、絵を描いてみたんです。時間もかかったし、すごく疲れたけど、描きあがったときはとても嬉しかった。多少体が不自由になったって、こうやって何か出来るんだと生きる意欲が湧いてきました。」

コスモスの家にはボランティアの小林敬子さんの紹介で2年ほど前から来て頂いています。「みなさん、本当に熱心で、月に一回しか描いていないなんて思えないです。」藤田先生は、利用者の皆さんに絵を描く前に必ず線の練習をさせています。「絵手紙にはデッサンがないので、まず筆に慣れてもらうことが大事。いきなり描いても失敗してしまっす。集中力を



わつても手紙がなくなることはないと思っす先生、これからもよろしくお願っいたします!



出せるように、また恐れずに描いていただけると思っす。絵手紙には細かい決まりごとはそれほどありませんが、筆は上の方を持って力を込めずに描くこと、白い部分を必ず残すこと、線はゆっくりと刻むように、そして色は

さつと塗っていく、これぐらいです。あまり上手く描こうと思っす、それこそ『下手がいい』だと思っす。コスモスの家の方々が描くものは本当に個性があつて私もはつとさせられます。心がこもつてるといいですか。今度ぜひ、【コスモスの家・絵手紙展覧会】を開きたいです。今はメール全盛の時代、それに逆行して絵手紙を描く私は案外へそ曲がりなのかしらね(笑)でもね、手紙を描く(書く)ときの楽しさ、また受け取つたときの嬉しさは、言葉では言い表せません。ポストに自分宛ての手紙が入つてると見ると嬉しいものですよね。」そうですね! 世の中どんなに変わつても手紙がなくなることはないと思っす先生、これからもよろしくお願っいたします!





毎月第5木曜日は、歌の講師、山崎 修先生・ためる先生が宮前コスモスの家に来てくださいます。

この日は皆さんのリクエストにあわせて子どもの頃に唄った唱歌や懐かしい歌謡曲など盛りだくさんで、修先生の美声も聞かせてくださいました。



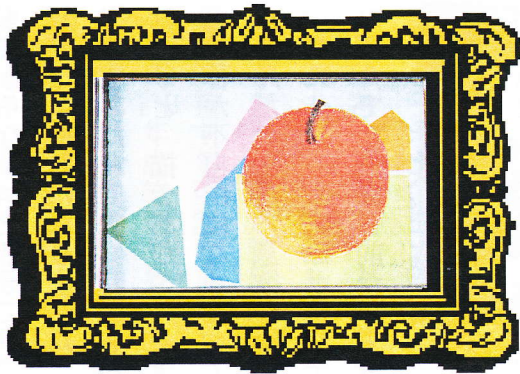
ご夫妻の息もぴったりで、ためる先生の進行にあわせた修先生の伴奏で皆さんの体も無理なく自然

に動いてしまします。そして懐

かしいリズムが心地よく耳に入ってきて、とても楽しいひとときとなりました。

宮前コスモスの家 今月の絵画

栗山典子先生のご指導で、まずりんごを各自手にもって重さや感触を確かめ、味わいもして画材を認識することから始まりました。白の画用紙にクレパスでりんごの中心から



外にむかつて塗りつぶしながら輪郭を作っていくという新しい描き方を学び、その後何色ものクレパスを上塗り重ねていく手法で最後に魔法の粉をふりかけて艶出しをしました。



有馬コスモスの家のカリキュラムは、手工芸や音楽鑑賞、水墨画など、さまざまです。今回はいくつかご紹介したいと思います。♪有馬コスモスの家よいところ、一度はおいで〜どっこいしょ〜♪

七夕交流会

有馬小学校 1.2 年生と交流会！子供達と一緒に七夕飾りを作りました！



パターゴルフ

ポカポカと暖かい日でした！外でパターゴルフを楽しみました。みなさん、ナイスショットの連続でしたよ！



紫陽花ドライブ

梅雨の晴れ間に横浜にある正覚寺にあじさい見学に行きました。とってもきれいでしたよ